

2018年3月期 第3四半期決算説明資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 IRグループ

TEL: 03-3248-2167

E-mail: irinfo@nichirei.co.jp

URL : <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

単位：億円

	第3四半期			第3四半期（累計）			10/31発表の 通期見込に 対する進捗率	通期				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比			見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	572	36	7%	1,711	140	9%	77%	2,223	173	8%	2,223	-
水産	222	10	4%	579	17	3%	79%	730	36	5%	730	-
畜産	248	9	4%	687	14	2%	77%	890	9	1%	890	-
低温物流	502	21	4%	1,450	34	2%	75%	1,925	56	3%	1,925	-
不動産	12	1	7%	36	2	5%	75%	48	2	4%	48	-
その他	17	3	23%	39	6	17%	76%	52	7	16%	52	-
調整額	-51	-3	-	-152	-9	-	-	-198	-9	-	-198	-
売上高合計	1,523	77	5%	4,351	204	5%	77%	5,670	273	5%	5,670	-
加工食品	40	-3	-6%	125	-6	-5%	85%	147	8	6%	147	-
水産	3	-3	-48%	5	-7	-55%	76%	7	-1	-12%	7	-
畜産	5	-3	-37%	11	-2	-17%	81%	14	-2	-13%	14	-
低温物流	38	-0	-0%	95	7	8%	83%	115	9	8%	115	-
不動産	5	-0	-3%	16	0	1%	76%	21	-0	-1%	21	-
その他	3	1	33%	7	3	84%	99%	7	1	16%	7	-
調整額	-1	-1	-	-4	-3	-	-	-6	-3	-	-6	-
営業利益合計	94	-9	-9%	256	-7	-3%	84%	305	12	4%	305	-
経常利益	96	-7	-7%	260	-2	-1%	85%	306	15	5%	306	-
純利益	61	-4	-6%	163	-8	-5%	84%	195	7	4%	195	-

為替レート	2017年度	2017年度	2016年度
	通期見込	第3四半期実績	第3四半期実績
米ドル/円	112.00	111.93	108.71
ユーロ/円	125.00	124.55	121.21

注：①純利益は「親会社株主に帰属する純利益」を表している
 ②為替レートは1月～9月までの期中平均で算出している（在外子会社の財務諸表の換算で使用）

1.第3四半期（累計）

- ①売上高は主力の加工食品や低温物流が引き続き順調に推移し増収。
- ②営業利益は加工食品や水産が減益となったが、全体では計画通り進捗。

2.通期（見込）

主力事業が順調に推移し、全体で増収・増益を見込む。

単位：億円

	第3四半期			第3四半期(累計)				通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		10/31発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減	
加工食品	売上高 計	572	36	7%	1,711	140	9%	77%	2,223	173	8%	2,223	-
	家庭用調理品	153	14	10%	425	34	9%	75%	566	41	8%	566	-
	業務用調理品	257	13	5%	766	84	12%	77%	990	102	12%	990	-
	農産加工品	51	2	4%	149	1	1%	80%	186	-2	-1%	186	-
	海外	77	10	14%	236	16	7%	77%	305	20	7%	305	-
	その他	35	-2	-5%	135	5	4%	77%	176	12	7%	176	-
	営業利益	40	-3	-6%	125	-6	-5%	85%	147	8	6%	147	-

1. 第3四半期（累計）

- ①家庭用調理品は「特から」や、「本格炒め炒飯」などの米飯類が寄与し増収。
業務用調理品は中食ルート向けにチキン加工品やハンバーグの販売が伸長。
- ②営業利益は原材料・仕入コストの上昇や関係会社の業績影響などにより減益。

2. 通期（見込）

- ①調理品の販売は引き続き好調に推移する見込。
- ②営業利益はコスト上昇の影響があるが、4Qは増収効果に加え、広告費が前年同期間に比べ減少することなどから、通期では増益に転換。

単位：億円

		第3四半期			第3四半期(累計)				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		10/31発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
低温物流	売上高計	502	21	4%	1,450	34	2%	75%	1,925	56	3%	1,925	-
	国内小計	405	9	2%	1,178	26	2%	77%	1,538	31	2%	1,538	-
	物流ネットワーク	236	6	2%	687	14	2%	76%	902	17	2%	902	-
	地域保管	169	4	2%	491	12	2%	77%	636	14	2%	636	-
	海外	93	15	19%	256	15	6%	76%	336	16	5%	336	-
	その他・共通	5	-3	-41%	15	-7	-30%	30%	51	9	22%	51	-
	営業利益計	38	-0	-0%	95	7	8%	83%	115	9	8%	115	-
	国内小計	37	2	5%	93	12	14%	86%	108	14	14%	108	-
	物流ネットワーク	13	2	14%	32	7	27%	88%	36	7	24%	36	-
	地域保管	24	0	1%	62	5	9%	85%	72	7	10%	72	-
海外	2	-0	-9%	6	-1	-16%	64%	10	-1	-11%	10	-	
その他・共通	-1	-2	-	-5	-4	-	-	-3	-4	-	-3	-	

注：エンジニアリング事業はその他・共通に含まれる。

1.第3四半期（累計）

- ①国内は人件費などのコストアップが継続するなか、業務効率化の推進や適正料金の収受に加え、大都市圏を中心に集荷が進み増収・増益。
- ②海外は、チキン在庫の減少や輸配送コスト上昇などにより利益は前期を下回る。

2.通期（見込）

- ①国内は引き続き順調に推移する見込み。海外は集荷拡大や効率化を推進する。
- ②3月に東京団地冷蔵内に平和島DCが稼働予定。円滑な立ち上げに注力するとともに、東京港湾地区における保管貨物の最適配置を進める。

単位：億円

		第3四半期			第3四半期(累計)				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		10/31発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	222	10	4%	579	17	3%	79%	730	36	5%	730	-
	営業利益	3	-3	-48%	5	-7	-55%	76%	7	-1	-12%	7	-
畜産	売上高	248	9	4%	687	14	2%	77%	890	9	1%	890	-
	営業利益	5	-3	-37%	11	-2	-17%	81%	14	-2	-13%	14	-

1. (水産)

- ①調達コスト上昇の影響を受けたエビの利益率が低下し減益。
- ②販売価格への転嫁など利益率改善に向けた取り組みを継続する。

2. (畜産)

- ①チキンを中心に前期好調の反動により減益となったが、概ね計画通り進捗。
- ②調達コスト上昇に対応した価格改定や加工品の販売に注力し、通期見込の達成をめざす。

参考資料

営業外収支・特別損益の変動要因

おいしい瞬間を届けたい



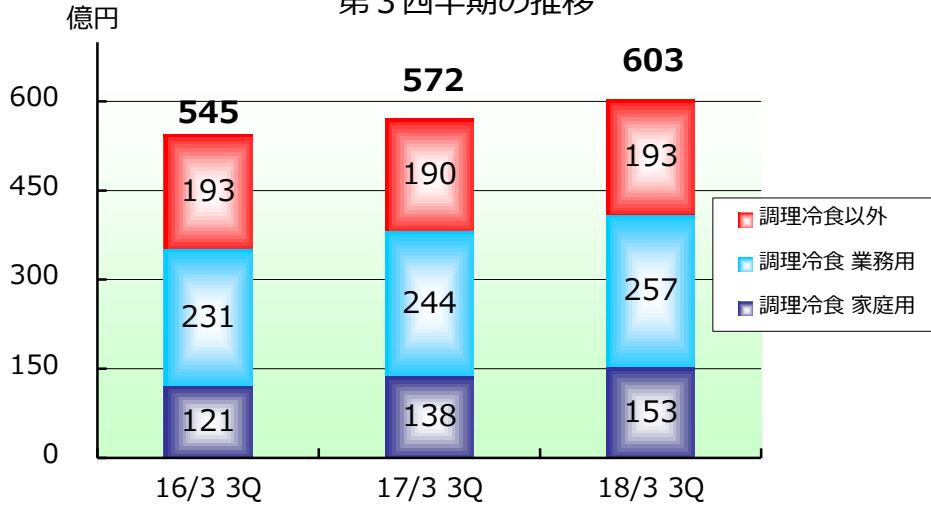
単位：億円（未満切り捨て）

プラス表示は利益を示す	第3四半期累計			通 期		
	16/12	17/12	増減	17/3	18/3E	増減
【営業外収支】 (主要項目)	△0	4	5	△2	1	3
金融収支	△0	0	1	△2	△1	1
持分法による投資損益	2	3	0	2	1	△1
【特別損益】 (主要項目)	△1	△7	△5	△12	△9	3
固定資産売却益	3	0	△3	4	0	△3
固定資産売却損・除却損	△4	△7	△2	△8	△8	△0
退職給付制度改定損	-	-	-	△2	-	2
減損損失	△0	△0	0	△2	-	2

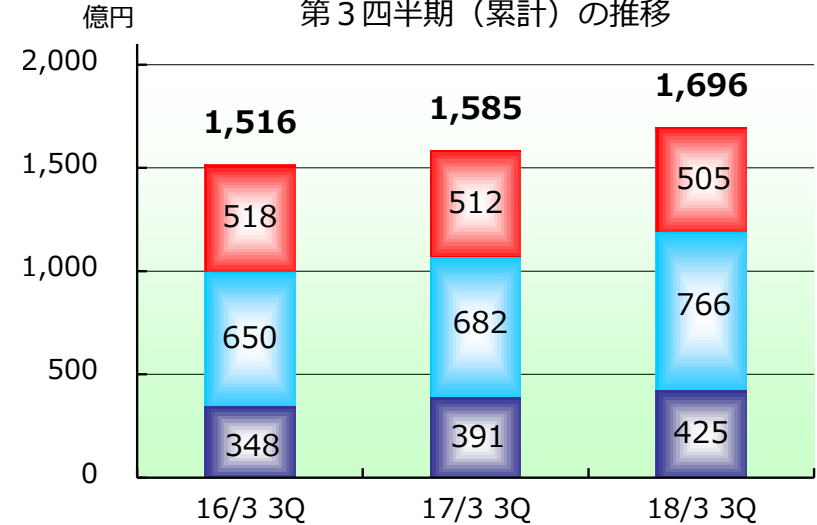
当社の国内冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

第3四半期の推移

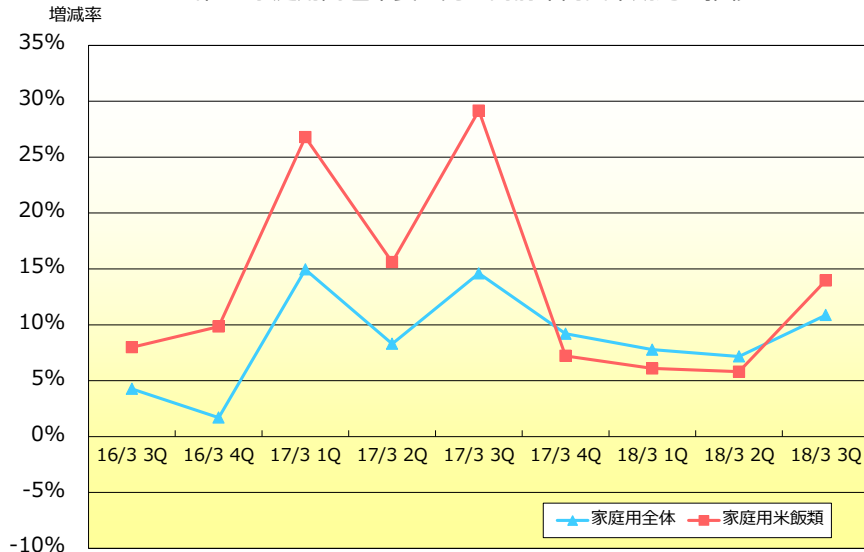


第3四半期（累計）の推移

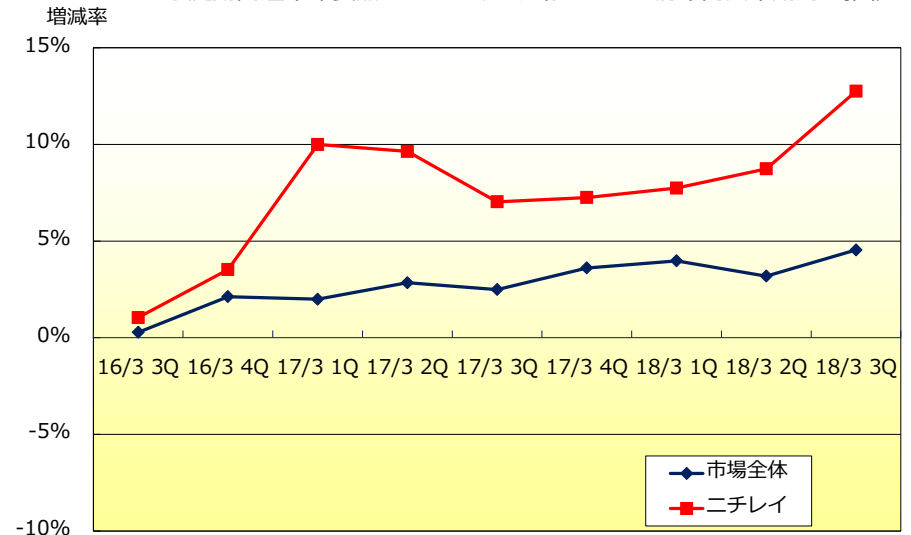


注：売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

当社の家庭用調理冷食の売上高前年同四半期比の推移

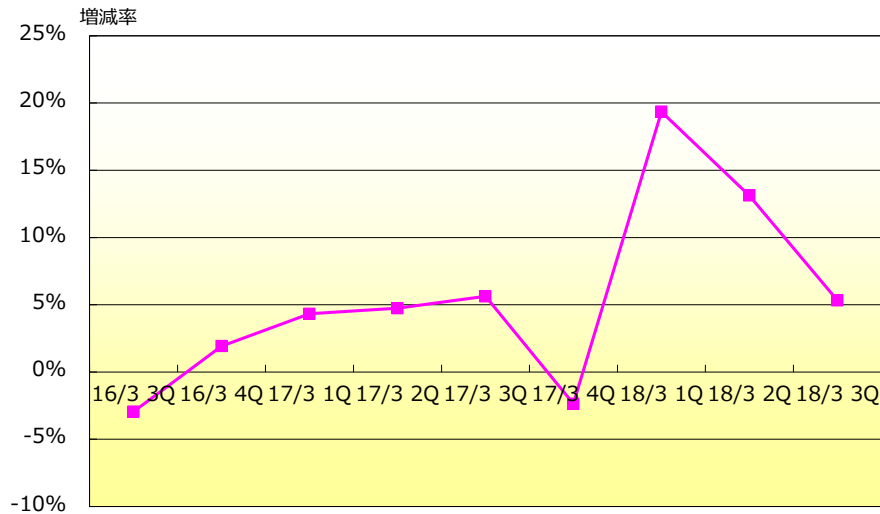


SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移

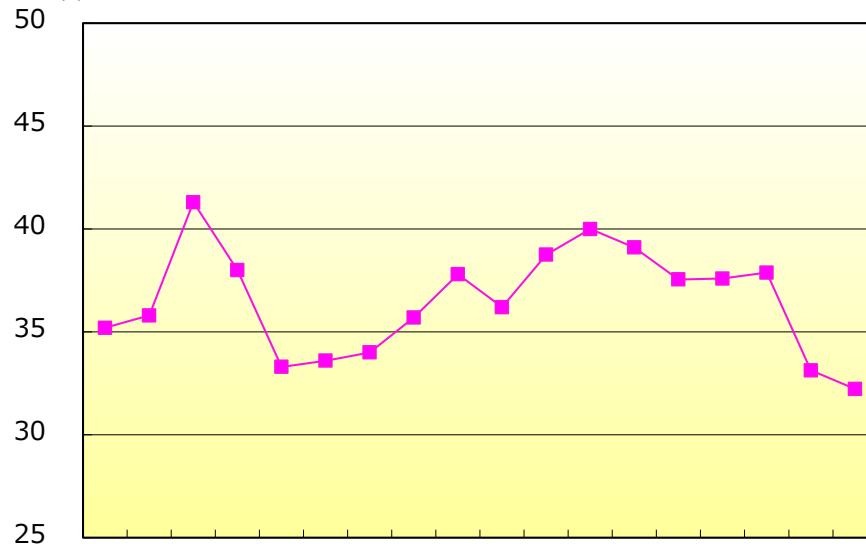


出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比。購入ルート=生協店舗を含む）

当社の業務用調理冷食の売上高前年同四半期比の推移

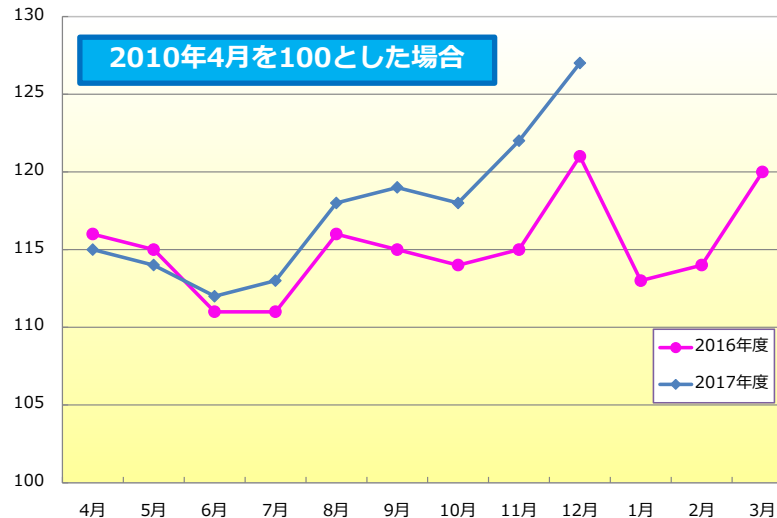


単位：パーツ タイ国内鶏肉卸売価格の推移



出典：(独)農畜産業振興機構 (alic) 発表のデータを当社が加工

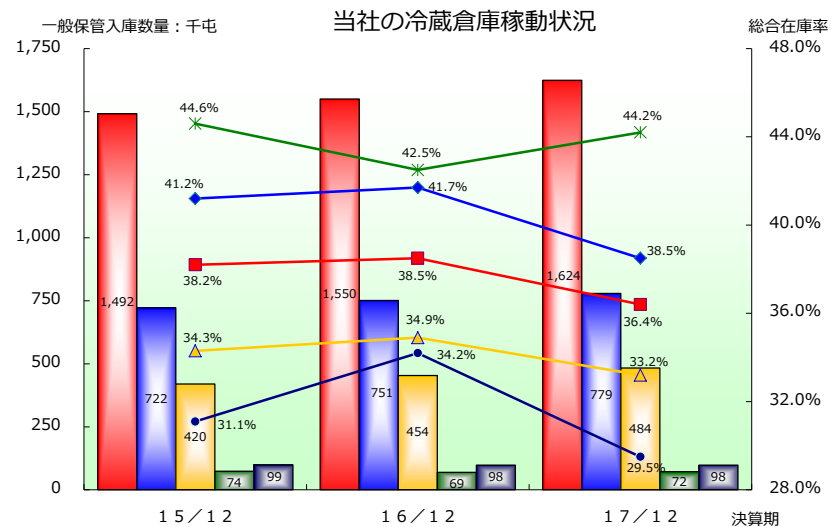
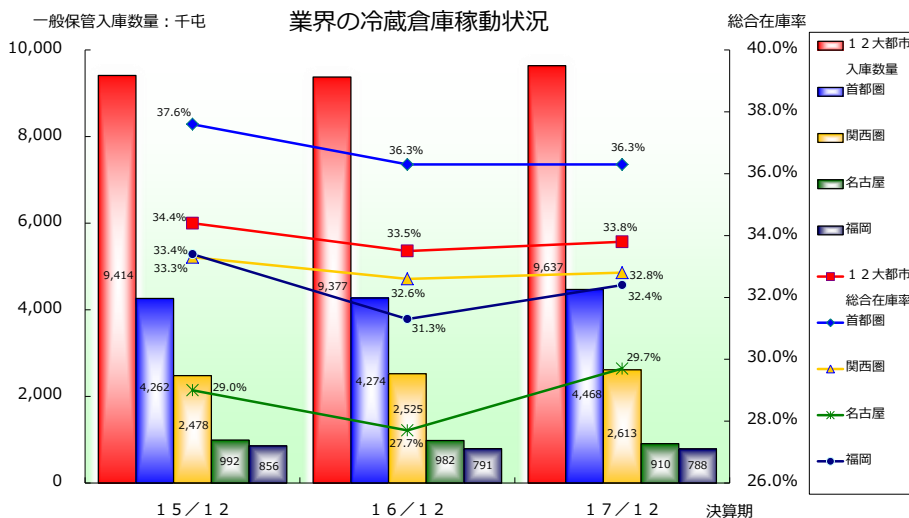
成約運賃指数（月別）の推移



出典：（社）全日本トラック協会発表のデータを当社が加工。常温を含む全温度帯が対象

冷蔵倉庫の稼働状況（業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工）

注：日本冷蔵倉庫協会に加盟している会員のみデータを用いて作成（一部推計を含む）



注：在庫率は冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。